

子育て中は時間が足りない  
周りの人たちに  
助けられています



## 岡本 卓也

Okamoto Takuya

学術研究院人文科学系 准教授  
(人文学部 人文学科 心理学・社会心理学 准教授)

広島県生まれ。2001年関西学院大学社会学部卒業。2006年同大学大学院社会学研究科単位取得満期退学。2007年博士(社会学)取得。関西学院大学社会学部助教、准教授を経て、2012年より現職。

### 【学生へのメッセージ】

地域に、社会に、世界にもっともっと関心を持って欲しいと思います。そのため、まずは動くこと、外に出ることから始めてみてください。そもそも関心がないものに「関心を持って」と言われても、どうしようもないことでしょう。でも動き始めることで見えてくることは多々あります。人は、動いていない対象に対しては認知することすら困難ですし、変化のない同じ対象を見続ければ、興味関心も薄れて当然です。何をして良いのか分からない、あるいは何かを知りたいと思った時には、まずは自分が動いてみる、外に出てみる。家から外へ、地域から外へ、日本から外へ。みなさんの年齢なら、地球の外へ出るチャンスもあるかもしれません。うらやましい！



元気あふれる子どもたち。下の子を抱っこすれば、上の子に「僕も」とせがまれ、上の子を抱っこすれば、下の子も当然抱っこ。

ゼミの学生たちが子どもたちと遊んでくれます。子どもたちも優しいお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぶのが楽しくて仕方ない様子。



信大に来てからは、毎年、シーズンごとに家族で上高地を訪ねています。写真を見比べると、子どもたちの成長を感じられます。

巡礼者の心理過程の研究のため、自分も「お四国」を歩き遍路中。この写真は、知り合ったサーファーの人が撮ってくれました。

File  
2

### 移動と所属の心理学

専門は社会心理学で、特に集団への所属や移動の心理過程などについて研究しています。もともとは、集団への所属意識が高いがゆえに生じてしまう集団間コンフリクト、偏見や差別、ステレオタイプの問題を取り扱っていました。その中で、地域への所属意識に関する研究を行うようになり、コミュニティ意識が行動に与える影響や、人と場所の関わりにおける心理過程に関する研究も進めています。また最近では、移動することとして、旅や巡礼、山行行動へも対象を拡げており、総合的に人の移動と定住に関する心のメカニズムを明らかにしていきたいと考えています。

### 長距離バスの添乗員で旅行気分？

学生の頃は、とにかく旅行が好きで、暇とお金があれば、いつもどこかに出かけていました。正確に言えば、お金がないのに旅行に出ることも多く、駅や公園で寝たり、ヒッチハイクで移動をしたりすることもありました(今から思えば無謀なことですね)。アルバイトでは、お金を貰いながら旅行ができると思います。夜行バスの添乗員をしていたこともあります。夜行バスの添乗員が多く、カフェイン入りのガムを噛みながら必死に眠気をこらえていたことを思い出します。結

局、現地に着いてお客さんが観光している間は、ほとんど昼寝をして過ごすことになり、あまり旅行をした気にはなれませんでした…。けれども、その頃の経験は、現在取り組んでいる研究のバックボーンにもなっており、決して無駄にはなっていないように思います。

### 毎朝毎夕の大運動会

現在、4歳と1歳の男の子たちの子育て中で、時間がいくらあっても足りない状況です。特に朝食から幼稚園への送り出し、また、夕食からお風呂そして寝かしつけの時間帯は、毎朝毎夕、大運動会が繰り返されています。これらの時間は当然のこととして、子どもたちが家にいる時間にはできれば在宅したいと考えているわけですが、この点について「裁量労働制」にずいぶん助けられているように思います。子どもを寝かしつけた後から研究室で仕事することもできますし、工夫次第で研究時間の確保もできます。寝かしつけの際、自分が寝落ちしてしまった時などは(しょっちゅうですが…)、その分、早く目覚めてしまうので、子どもたちが起きるまでの時間に仕事をすることもあります。自宅で仕事をしている時には、子どもたちの泣き声、おやつコール、かまってかまってダンス、謎のおたけびに認知資源を奪われがちで、考え事はなかなかできま

せんが、仕事内容をうまく配分することで、なんとかやりくりをしています。

一方で、宿泊を伴う出張に出ることが多く(数えてみたら1年間で80日以上)の年もありました)、家族には迷惑を掛けっぱなしです。ただ、周りの人に恵まれ、私が出張で家庭内での役割を果たしきれないようなときは、ゼミの学生や院生が子どもの面倒を見てくれることもありますし、休日出勤のときには、実験室に残っている学生が子どもたちと遊んでくれたりすることもあり、周りの人たちに助けられっぱなしです。

### ●●仕事の相棒!

#### 珈琲



珈琲が何よりの仕事の相棒です。論文を書くときにも、本を読むときにも、いつも傍らには珈琲。

NO COFFEE, NO WORK.

調査のため山に滞在することもあるのですが、荷物が増えるつらさを感じながらもミルを持参し、豆を挽くところから始まります。写真は奥穂高岳山頂。絶景を味わいながら飲む珈琲はまた格別です。